

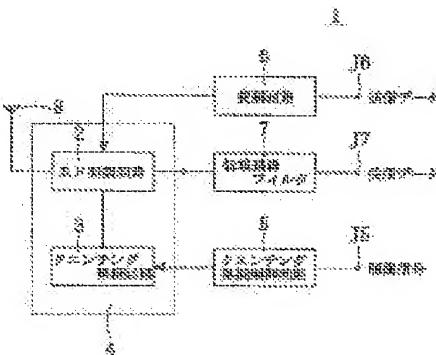
**TRANSMITTER-RECEIVER**

**Publication number:** JP2000183782 (A)  
**Publication date:** 2000-06-30  
**Inventor(s):** NISHIDAI TETSUO; TOGUCHI YOICHI; FURUKAWA HIROHISA  
**Applicant(s):** OMRON TATEISI ELECTRONICS CO  
**Classification:**  
- international: H04B1/40; H04Q9/00; H04B1/40; H04Q9/00; (IPC1-7): H04B1/40; H04Q9/00  
- European:  
**Application number:** JP19980361187 19981218  
**Priority number(s):** JP19980361187 19981218

**Abstract of JP 2000183782 (A)**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To attain miniaturization, power saving and high speed switching of a transmitter-receiver by providing a transmission function to a super-regenerative reception circuit consisting of an RF oscillation circuit and a quenching oscillation circuit.

**SOLUTION:** A self-exciting super-regenerative reception circuit 4 consists of an RF oscillation circuit 2 and a quenching oscillation circuit 3. In the case of reception, the quenching oscillation circuit 3 and the RF oscillation circuit 2 apply super-regenerative detection to a reception signal captured by an antenna 8 and the detected signal passes through a low-pass filter 7, from which received data are obtained.; In the case of transmission, a quenching oscillation control circuit 5 stops the operation of the quenching oscillation circuit 3, a modulation circuit 6 modulates a high frequency signal generated by the RF oscillation circuit 2 and the modulated transmission signal is sent out from the antenna 8.



.....  
Data supplied from the **esp@cenet** database — Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-183782

(P2000-183782A)

(43)公開日 平成12年6月30日 (2000.6.30)

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード <sup>*</sup> (参考)
H 04 B 1/40		H 04 B 1/40	5 K 01.1
H 04 Q 9/00	3 0 1 3 3 1	H 04 Q 9/00	3 0 1 B 5 K 04.8 3 3 1 B

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 14 頁)

(21)出願番号 特願平10-361187

(71)出願人 000002945

オムロン株式会社

京都府京都市右京区花園土堂町10番地

(22)出願日 平成10年12月18日 (1998.12.18)

(72)発明者 西臺 哲夫

京都府京都市右京区花園土堂町10番地 オムロン株式会社内

(72)発明者 戸口 洋一

京都府京都市右京区花園土堂町10番地 オムロン株式会社内

(74)代理人 100094019

弁理士 中野 雅房

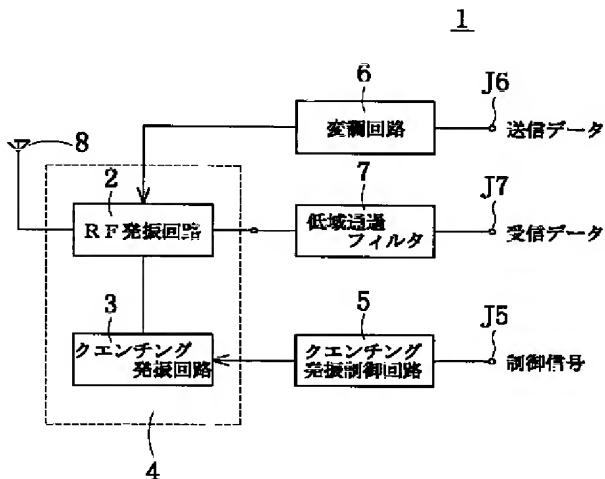
最終頁に統く

(54)【発明の名称】 送受信装置

(57)【要約】

【課題】 R F 発振回路とクエンチング発振回路からなる超再生受信回路に送信機能を持たせることにより、送受信装置の小型化、省電力化および高速切替えを可能とする。

【解決手段】 R F 発振回路 2 及びクエンチング発振回路 3 から自励式超再生受信回路 4 が構成される。受信動作時には、アンテナ 8 で捕捉した受信信号をクエンチング発振回路 3 と R F 発振回路 2 により超再生検波したのち、低域通過フィルタ 7 を通過させて受信データを得る。送信動作時には、クエンチング発振制御回路 5 によりクエンチング発振回路 3 を動作停止させ、R F 発振回路 2 で生成した高周波信号を変調回路 6 で変調させ、変調した送信信号をアンテナ 8 から送り出す。



**【特許請求の範囲】**

**【請求項1】** 高周波発振回路およびクエンチング発振回路を有する超再生受信手段と、前記クエンチング発振回路の発振のオン、オフを制御するクエンチング発振制御手段と、前記高周波発振回路により生成される所定周波数の信号を変調する変調手段と、信号を送信および受信するアンテナとを備え、前記クエンチング発振制御手段により前記クエンチング発振回路のクエンチング発振を行なわせ、それにより前記アンテナで受信される変調波を前記超再生受信手段によって復調し、また、前記クエンチング発振制御手段により前記クエンチング発振回路のクエンチング発振を停止させるとともに、前記変調手段により前記高周波発振回路が生成する所定周波数の信号を変調し、それにより前記アンテナから変調波を送信することを特徴とする送受信装置。

**【請求項2】** 高周波発振回路と、前記高周波発振回路をオン、オフ制御する高周波発振制御手段と、信号を送信および受信するアンテナとを備え、

受信動作時には、前記高周波発振制御手段をクエンチング発振させ、それにより前記アンテナで受信される変調波を前記高周波発振回路及び前記高周波発振制御手段によって復調し、また、送信動作時には、前記高周波発振制御手段を変調動作させて前記高周波発振回路が生成する所定周波数の信号を変調し、それにより前記アンテナから変調波を送信することを特徴とする送受信装置。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は送受信装置に関する。特に、單一回線により半二重で互通通信を行う双方向の無線送受信装置に関する。

**【0002】**

【従来の技術】各通信局間で送受信を行なわせるための通信方法としては、全二重通信方式と半二重通信方式がある。全二重通信方式は、2チャネルを用いて各通信局間で並行して双方向の送信と受信を行なうものである。半二重通信方式は、单一チャネルにより交互に通信することにより双方向通信を可能にするものである。前者の全二重通信方式は、占有チャネル数が2チャネルとなり、半二重通信方式の2倍のチャネルを占有するから、周波数の有効利用の点では不利である。

**【0003】**しかし、全二重通信方式で双方向通信を行なうにしろ、半二重通信方式で双方向通信を行なうにしろ、各通信局毎に送信回路と受信回路の2系統を個別に必要とする。このため、従来にあっては、送受信装置の回路規模が大きくなり、送受信装置の小型化が妨げられていた。

**【0004】**さらに、半二重通信方式では、送信回路と受信回路を所定の間隔で交互に切り替えて運用する構成

となっているので、送信動作と受信動作の切替え時、送信回路又は受信回路が正常動作するまでのセットアップ時間が必要となり、レスポンスが悪くなるという欠点がある。また、レスポンス向上のため、送信回路と受信回路におのおの待機時にも通電を行うようにすると、送信回路と受信回路の2系統に常に電力を供給することになり、消費電力が大きくなるという問題がある。

**【0005】**

【発明が解決しようとする課題】本発明は上述の技術的問題点を解決するためになされたものであり、その目的とするところは、受信回路に送信機能を持たせることにより、送受信装置の小型化、省電力化および高速切替えを可能とすることにある。

**【0006】**

【発明の開示】請求項1に記載の送受信装置は、高周波発振回路およびクエンチング発振回路を有する超再生受信手段と、前記クエンチング発振回路の発振のオン、オフを制御するクエンチング発振制御手段と、前記高周波発振回路により生成される所定周波数の信号を変調する変調手段と、信号を送信および受信するアンテナとを備え、前記クエンチング発振制御手段により前記クエンチング発振回路のクエンチング発振を行なわせ、それにより前記アンテナで受信される変調波を前記超再生受信手段によって復調し、また、前記クエンチング発振制御手段により前記クエンチング発振回路のクエンチング発振を停止させるとともに、前記変調手段により前記高周波発振回路が生成する所定周波数の信号を変調し、それにより前記アンテナから変調波を送信することを特徴とするものである。

**【0007】**本発明の送受信装置は、受信時には高周波発振回路とクエンチング発振回路からなる超再生受信回路によって受信動作し、送信時にはクエンチング発振を停止させて高周波発振回路と変調回路によって送信動作する。従って、送受信機能において高周波発振回路を共有させることができ、送受信装置の回路規模を小さくすることができる。

**【0008】**また、高周波発振回路は送信時においても受信時においても常に動作状態にあるので、送受切替え時に必要な動作安定時間を大幅に短縮することができ、送受信のレスポンスを向上させることができる。さらに、送受信機能を共有して常に高周波発振回路を動作状態にしているので、待機時の暗電流や送受切替え時の突入電流がなくなり、省電力化を図ることができる。よって、バッテリ駆動の場合などには、電池を超寿命化することができる。

**【0009】**また、高周波発振回路を常に動作状態に保っているので、送受信の切り替えに高周波スイッチ等の特殊部品を必要とせず、容易に送受信切替えが可能となる。

**【0010】**従って、本発明の送受信装置によれば、携

帶機器の用途に最適な双方向無線通信装置を提供することができる。

【0011】また、請求項2に記載の送受信装置は、高周波発振回路と、前記高周波発振回路をオン、オフ制御する高周波発振制御手段と、信号を送信および受信するアンテナとを備え、受信動作時には、前記高周波発振制御手段をクエンチング発振させ、それにより前記アンテナで受信される変調波を前記高周波発振回路及び前記高周波発振制御手段によって復調し、また、送信動作時には、前記高周波発振制御手段を変調動作させて前記高周波発振回路が生成する所定周波数の信号を変調し、それにより前記アンテナから変調波を送信することを特徴としている。

【0012】請求項2に記載の送受信装置では、高周波発振回路をオン、オフ制御する高周波発振回路をクエンチング発振と変調動作に切り替えることにより、請求項1に記載した送受信装置と同様な機能を実現している。従って、請求項2の送受信装置にあっても、高周波発振回路の共有によって送受信装置の回路規模を小さくできる、送受切替え時の動作安定時間を大幅に短縮できて送受信のレスポンスを向上させることができる、省電力化を図ることができるといった効果を奏する。

【0013】従って、本発明の送受信装置によれば、携帯機器の用途に最適な双方向無線通信装置を提供することができる。

#### 【0014】

【発明の実施の形態】図1は本発明の一実施形態による送受信装置1の構成を示すブロック図であって、ASK(振幅偏移変調)による双方向無線送受信装置を示している。この送受信装置1は、RF発振回路2及びクエンチング発振回路3からなる自励式超再生受信回路4と、クエンチング発振回路3をオン、オフ制御するクエンチング発振制御回路5と、送信時にRF発振回路2を制御して変調を行う変調回路6と、低域通過フィルタ(ローパスフィルタ)7と、信号を送信及び受信するアンテナ8とを備えている。ここで、RF発振回路2は受信信号のキャリア波(搬送波)に同調する周波数で発振するよう設定されている。クエンチング発振回路3は、RF発振回路2の発振立ち上がりを抑制するように動作するものである。クエンチング発振制御回路5は、バイアス抵抗で回路条件を変えてクエンチング発振の有無を制御するものである。変調回路6は、送信データに応じてRF発振回路の状態を可変し、変調動作を行なうものである。また、アンテナ8は送受共用のものを用いているが、送信用と受信用のものとが別々になっていても差し支えない。

【0015】まず、この送受信装置1の受信動作を図2(a) (b) (c) を用いて説明する。図2(a) はアンテナ8で捕捉されてRF発振回路2に入力される受信信号の信号波形を示し、図2(b) はRF発振回路2に

入力された図2(a) の受信信号がRF発振回路2から出力される際の信号波形を示し、図2(c) はさらに低域通過フィルタ7を通過した後の波形を示している。

【0016】受信動作時においては、クエンチング発振制御回路5がクエンチング発振回路3を動作させており、変調回路6は動作停止状態にある。いま、図2(a) の期間T1におけるように、アンテナ8で受信された受信信号が振幅0(コード「0」)の部分であって、アンテナ8からRF発振回路2にキャリア波が入力されていないとする。この場合には、RF発振回路2で十分にRF発振が立ちあがる前にクエンチング発振回路3のクエンチング発振によってRF発振が停止させられ、次のRF発振が開始する。このため、RF発振回路2から出力される信号は、図2(b) に示すような小さな振幅の信号となり、低域通過フィルタ7を通過することによって検波出力はレベル「0」となる。

【0017】これに対し、図2(a) の期間T2におけるように、アンテナ8で捕捉されてRF発振回路2に入力された受信信号がある振幅を持っている(コード「1」と、RF発振回路2においてはキャリア波によってRF発振が急速に立上がる[図2(b)]。RF発振回路2で発生したRF発振信号を低域通過フィルタ7に通すと、図2(c) に示すように検波出力はレベル「1」となる。

【0018】このようにして、この送受信装置1においては、アンテナ8からRF発振回路2に入力されるキャリア波(受信信号)の有無によるRF発振の立上がり変化を低域通過フィルタ7に通すことによって検波出力が得られ、これを復調された受信データとして出力する。

【0019】次に、送受信装置1の送信動作について説明する。送信動作時には、クエンチング発振制御回路5はクエンチング発振回路3を停止させている。変調回路6は、入力された送信データ(デジタル信号)の「1」、「0」に応じてRF発振回路2をオン、オフし、RF発振回路2で発生するキャリア波のASK変調波形を得る。この変調波形の送信信号は、アンテナ8によって空間に放射される。

【0020】このようなASK変調方式の双方向送受信装置1の具体的構成の一例を図3に示す。RF発振回路2は、トランジスタTR20と、トランジスタTR20のコレクタに接続されたインダクタL20及びキャパシタC20からなる共振回路LCと、トランジスタTR20のコレクタ・エミッタ間に接続されたキャパシタC21と、トランジスタTR20のエミッタ・ベース間に接続されたキャパシタC22とで構成された変形コルピツ発振回路を基本とし、共振回路LCの上側電圧を分圧抵抗R20及びR21で分圧した電圧をトランジスタTR20のベースに印加し、共振回路LCの信号入力側とグランドとの間にキャパシタC23を接続し、トランジスタTR20のベースとグランドの間にキャパシタC2

4を接続しており、トランジスタTR20のコレクタがアンテナ8に接続されている。クエンチング発振回路3は、RF発振回路2と共用のトランジスタTR20と、トランジスタTR20のエミッタとグランド間に並列にして接続された抵抗R30及びキャパシタC30からなる弛張発振回路で構成されている。クエンチング発振制御回路5は、トランジスタTR50、そのエミッタ・ベース間に接続された抵抗R50及びベース抵抗R51からなるデジタルトランジスタ回路と、出力部に設けられた高抵抗値の抵抗R52とで構成されている。ベース抵抗R51の一端に位置する入力端子J5には、クエンチング発振制御回路5の制御信号が入力され、出力端はRF発振回路2の共振回路LCに接続されている。また、変調回路6は、トランジスタTR60、そのエミッタ・ベース間に接続された抵抗R60及びベース抵抗R61からなるデジタルトランジスタ回路と、出力部に設けられた低抵抗値の抵抗R62とで構成されている。ベース抵抗R61の一端に位置する入力端子J6には送信データが入力され、出力端はRF発振回路2の共振回路LCに接続されている。従って、クエンチング発振制御回路5と変調回路6とは、同じ回路構成を有しているが、クエンチング発振制御回路5では、出力部に高抵抗R52を用いているのに対し、変調回路6では、出力部に低抵抗R62を用いている。低域通過フィルタ7は、抵抗R70とキャパシタC70をL形接続して構成されており、低域通過フィルタ7の入力部はRF発振回路2の共振回路LCに接続されており、出力端子J7からは復調された受信データが取り出される。

【0021】この送受信装置1の受信動作時における回路動作を説明すると、以下に述べるとおりである。クエンチング発振制御回路5は、受信動作時には入力端子J5をローレベルに設定され、トランジスタTR50がオンになってRF発振回路2とクエンチング発振回路3に電源VDDを供給する。変調回路6は、入力端子J6をハイレベルに設定され、トランジスタTR60がオフとなって変調動作を停止する。これによりRF発振回路2とクエンチング発振回路3によって超再生検波が行われ、アンテナ8で受信した受信信号によって変化したRF発振回路2の発振波形を低域通過フィルタ7に通すことで検波出力（受信データ）を得る。

【0022】また、送信動作時には、逆にクエンチング発振制御回路5の端子J5をハイレベルに設定してトランジスタTR50をオフにする。一方、変調回路6は、送信データ（負論理）が端子J6から入力されることにより、RF発振回路2とクエンチング発振回路3に電源VDDを供給するが、抵抗R62が低抵抗であるため、インダクタL20及びキャパシタC20で決まる共振周波数以外はトランジスタTR20への帰還量が大幅に減少する。その結果としてクエンチング発振が停止し、RF発振回路2のみが送信信号によってオン、オフ制御さ

れ、ASK変調された送信信号がアンテナ8から送出される。

【0023】このような構成の送受信装置1によれば、送受信機能においてRF発振回路2を共用することができるので、送受信装置1の回路を小型化することができる。また、送受信回路が共有されていてRF発振回路2が常に動作状態にあるため、送受信切替後のセットアップ時間を短縮することができ、レスポンスも向上する。さらに、送受信回路の共有により、待機動作時の暗電流が不要となり、かつ送受信切替時の突入電流も低減できるので、送受信装置1の省電力化を図ることができる。また、高周波スイッチ等の特殊な部品を用いることなく、送受信回路の切替えも行うことができる。

【0024】（第2の実施形態）図4は本発明の別な実施形態による送受信装置11を具体的に示す回路図であって、RF発振回路2を外部クエンチング発振で制御する他励式超再生受信回路4を用いたものである。この実施形態の送受信装置11もブロック図で表わせば図1のブロック図と同じであるので、図4の具体回路図に従って説明する。

【0025】RF発振回路2は、トランジスタTR20と、トランジスタTR20のコレクタに接続されたインダクタL20及びキャパシタC20からなる共振回路LCと、トランジスタTR20のコレクタ・エミッタ間に接続されたキャパシタC21と、トランジスタTR20のエミッタ・ベース間に接続されたキャパシタC22とで構成された変形コルピツツ発振回路を基本とし、トランジスタTR20のエミッタとグランドの間にエミッタ抵抗R22を接続し、共振回路LCの上側電圧を分圧抵抗R20及びR21で分圧した電圧をトランジスタTR20のベースに印加し、共振回路LCの信号入力側とグランドとの間にキャパシタC23を接続し、トランジスタTR20のベースとグランドとの間にキャパシタC24を接続してあり、トランジスタTR20のコレクタがアンテナ8に接続されている。

【0026】クエンチング発振回路3は、外部からRF発振回路2の制御を行うもので、この実施形態では発振用集積回路IC12を用いて実現され、その出力はRF発振回路2の入力部（共振回路LC）に接続されている。また、クエンチング発振制御回路5は、トランジスタTR50、そのエミッタ・ベース間に接続された抵抗R50及びベース抵抗R51からなるデジタルトランジスタ回路で構成されている。ベース抵抗R51の一端に位置する入力端子J5には、クエンチング発振制御回路5の制御信号が入力され、出力端（トランジスタTR50のコレクタ）はクエンチング発振回路3に直接に接続されている。また、変調回路6は、トランジスタTR60、そのエミッタ・ベース間に接続された抵抗R60及びベース抵抗R61からなるデジタルトランジスタ回路と、出力部の抵抗R63とで構成されている。ベース抵

抗R61の一端の入力端子J6には送信データが入力され、出力端はRF発振回路2の共振回路LCに接続されている。低域通過フィルタ7は、抵抗R70とキャパシタC70をL形接続して構成されており、低域通過フィルタ7の入力部はRF発振回路2の共振回路LCに接続されており、出力端子J7からは復調された受信データが取り出される。

【0027】まず、この送受信装置11の受信動作を説明する。クエンチング発振制御回路5は、受信動作時には入力端子J5をローレベルに設定され、トランジスタTR50がオンになってクエンチング発振回路3に電源VDDを供給し、RF発振回路2のクエンチング制御を行う。変調回路6は、入力端子J6をハイレベルに設定され、トランジスタTR60がオフとなって変調動作を停止する。これによりRF発振回路2とクエンチング発振回路3によって超再生検波が行われ、アンテナ8で受信した受信信号によって変化したRF発振回路2の発振波形を低域通過フィルタ7に通すことで検波された受信データを得る。

【0028】また、送信動作時には、逆にクエンチング発振制御回路5の入力端子J5をハイレベルに設定してトランジスタTR50をオフにし、クエンチング発振回路3を動作停止させる。一方、変調回路6は、送信データ（負論理）が入力端子J6から入力されることにより、RF発振回路2が送信信号によってオン、オフ制御され、ASK変調された送信信号がアンテナ8から送出される。

【0029】従って、このように他励式超再生受信回路を用いた実施形態でも、自励式超再生受信回路を用いた第1の実施形態と同様な作用効果を奏すことができる。

【0030】(第3の実施形態)図5は本発明のさらに別な実施形態による双方向無線送受信装置21を示す具体回路図である。この送受信装置21においては、RF発振回路2をオン、オフ制御するRF発振制御回路22によってクエンチング発振回路3と変調回路6とが構成されており、受信動作時にはRF発振制御回路22はクエンチング発振回路3として動作することで超再生検波し、送信動作時にはRF発振制御回路22は変調回路6として動作する。この実施形態を図5の具体回路図に従って説明する。図5ではRF発振制御回路22はマイクロプロセッサ(CPU)によって構成されているが、ICや個別回路素子によって構成されていても差し支えない。

【0031】RF発振回路2は、トランジスタTR20と、トランジスタTR20のコレクタに接続されたインダクタL20及びキャパシタC20からなる共振回路LCと、トランジスタTR20のコレクタ・エミッタ間に接続されたキャパシタC21と、トランジスタTR20のエミッタ・ベース間に接続されたキャパシタC22と

で構成された変形コルピツツ発振回路を基本とし、トランジスタTR20のエミッタとグランドの間にエミッタ抵抗R22を接続し、共振回路LCの上側電圧を分圧抵抗R20及びR21で分圧した電圧をトランジスタTR20のベースに印加し、共振回路LCの信号入力側とグランドとの間にキャパシタC23を接続し、トランジスタTR20のベースとグランドの間にキャパシタC24を接続してあり、トランジスタTR20のコレクタがアンテナ8に接続されている。また、クエンチング発振回路3及び変調回路6は、1個のCPUからなるRF発振制御回路22で構成されている。低域通過フィルタ7は、抵抗R70とキャパシタC70をL形接続して構成されており、低域通過フィルタ7の入力部はRF発振回路2の共振回路LCに接続されており、出力端子J7からは復調された受信データが取り出される。

【0032】まず、受信動作時の回路動作を説明する。受信動作時においては、RF発振制御回路22はクエンチング発振回路3として動作し、RF発振回路2に対してクエンチング発振波形を出し、RF発振回路2をクエンチング制御する。これによりアンテナ8で捕捉されたRF発振回路2に入力された受信信号の超再生検波が行われ、受信信号によって変化した発振波形を低域通過フィルタ7に通すことで受信データ（検波出力）が得られる。

【0033】また、送信動作時にはRF発振制御回路22は変調回路6として動作する。送信動作時においては、RF発振制御回路22はRF発振回路2に対して送信データを出し、RF発振回路2をオン、オフ制御することにより送信信号をASK変調し、ASK変調された送信信号をアンテナ8から送出する。

【0034】(第4の実施形態)図6は本発明のさらに別な実施形態による送受信装置31の具体回路図であって、自励式超再生受信回路4を用いたFSK(周波数偏移変調)方式の双方向送受信装置を示している。この送受信装置31においては、RF発振回路2、クエンチング発振回路3、クエンチング発振制御回路5、低域通過フィルタ7の構成は図3に示したものと同様であるから、説明を省略する。変調回路6は、D/A変換器(デジタル/アナログ変換器)32によって構成されており、変調回路6は、送信動作時には送信データの「0」、「1」コードに応じてRF発振回路2にV1、V2(V1 < V2)の電圧信号を出力することによってRF発振回路2を電位制御し、寄生容量を変化させることによって発振周波数をF1とF2に変化させ、FSK変調を行なう。RF発振回路2に2種類の電位V1、V2が加わると、トランジスタTR20のVcb-Cob特性による発振条件が変化することによって周波数が変化し、送信信号がFSK変調される。こうしてFSK変調された送信信号はアンテナ8から送出される。

【0035】また、超再生受信回路4はもともとFSK

受信が可能な検波回路であるから、この送受信装置31もFSK変調信号を受信して検波することができる。すなわち、超再生受信回路4は、図7に示すような周波数一受信特性を有しており、受信周波数が変化すると、図8に示すように受信出力に電圧変化 $\Delta V = V_2 - V_1$ が現れるので、FSK信号を受信して検波することができる。

【0036】図9は他励式超再生受信回路を用いたFSK変調方式の双方向無線送受信装置41を示す具体回路図である。この送受信装置41は、変調回路6以外は図4の他励式再生受信回路を用いた送受信装置11と同一の構成を有しており、変調回路6は図6に示した送受信装置31の変調回路6と同じくD/A変換器32によって構成したものであって、同様な作用によって送信信号をFSK変調し、受信信号をFSK検波する。

【0037】(送受信装置の応用例)本発明の送受信装置は、種々の応用分野を有しているが、そのうちの幾つかを以下に説明する。図10～図12は本発明の送受信装置を用いた車両51のワイヤレス・ドアロック装置を示す。これは図10に示すように、操作側のコントローラ(以下、主局という)52から車両51に搭載されたコントローラ(以下、従局という)53に無線送信信号を送信し、従局53から出力される制御信号によって車両51のドアを施錠または開錠させるようにしたものであって、主局52と従局53との間に応答確認機能を持たせている。

【0038】主局52は、図11に示すように、施錠スイッチ54、解錠スイッチ55、応答確認用のランプやブザー等の報知器56、中央演算処理装置57、記憶装置58および本発明に係る送受信装置59を備えている。しかして、操作者により施錠スイッチ54または解錠スイッチ55が操作されると、そのスイッチ54、55による施錠命令または解錠命令が中央演算処理装置57に伝えられる。命令を受け取った中央演算処理装置57は、その命令の内容に応じた指令コードと主局52の識別を行なうIDコードを記憶装置58から呼び出し、これら2つのコードを組み込んだ送信信号を生成する。施錠スイッチ54または解錠スイッチ55が操作された時の送受信装置59は、中央演算処理装置57によって送信回路として働くように制御される。そして、この送信信号を送受信装置59で高周波信号に変調し、アンテナ8から空間に放射する。

【0039】車両51に搭載された従局53は、図12に示すように、本発明に係る送受信装置60、中央演算処理装置61、記憶装置62およびドアロック装置を施錠又は解錠させるためのアクチュエータ63を備えている。送受信装置60は、通常の待機状態においては、中央演算処理装置61によって受信回路として働くように制御されている。空間伝播によって主局52から従局53へ送られた送信信号は、従局53のアンテナ8で捕ら

えられ、送受信装置60で指令コードおよびIDコードが検波される。検波されたコードは、中央演算処理装置61によって記憶装置62内のコードと比較判定される。ここでIDコードが一致すると、中央演算処理装置61は指令コードの内容に応じた制御信号をアクチュエータ63に出力し、指令コードに応じて車両51のドアを施錠もしくは解錠させる。

【0040】ついで、従局53の中央演算処理装置61はドアが指令どおり施錠もしくは解錠されたことを確認すると、送受信装置60を送信回路として働くように制御して暗号鍵(IDコードと同じものでもよく、異なるものであってもよい)を含んだ確認信号を出し、送受信装置60で変調された確認信号をアンテナ8から送信して応答する。

【0041】一方、主局52においては、施錠スイッチ54または解錠スイッチ55が操作されて送信信号をアンテナ8から送出した直後に、中央演算処理装置57により送受信装置59が受信回路として働くように制御されている。従って、従局53から確認信号が送られるとき、応答信号は主局52のアンテナ8で捕捉され、送受信装置59によって検波される。主局52の中央演算処理装置57は、検波された確認信号を記憶装置58内の暗号鍵情報と比較照合し、コードが一致すれば、確認信号によって伝えられた情報をランプやブザー等の報知器56によって操作者に伝達する。

【0042】このようにワイヤレス・ドアロック装置に本発明の送受信装置59、60を用い、さらに応答信号に暗号鍵情報を含めることにより、高速レスポンスと防犯性の向上を図ることができる。

【0043】(第2の応用例)図13～図15に示すものは本発明の送受信装置の別の応用例であって、車両71のワイヤレス・エンジンスター装置である。これは図13に示すように、操作側である主局72からの無線送信信号により車両71のエンジンの始動及び停止を遠隔制御するワイヤレス・エンジンスター装置において、エンジンや変速機の状態を示す情報を含む応答信号を車両71に搭載された従局73から主局72へ返す応答確認機能を持たせたものである。

【0044】主局72は、図14に示すように、エンジンスタートスイッチ74、エンジンストップスイッチ75および応答確認用のランプやブザー等の報知器76、中央演算処理装置77、記憶装置78及び本発明に係る送受信装置79を備えている。しかし、操作者によりエンジンスタートスイッチ74またはエンジンストップスイッチ75が操作されると、そのスイッチ74、75によるエンジンスタート命令またはエンジンストップ命令が中央演算処理装置77に伝えられる。命令を受け取った中央演算処理装置77は、その命令の内容に応じた指令コードと主局72の識別を行なうIDコードを記憶装置78から呼び出し、これら2つのコードを組み込ん

だ送信信号を生成する。エンジンスタートスイッチ74またはエンジンストップスイッチ75を操作された主局72では、中央演算処理装置77によって送受信装置79は送信回路として働くように制御されている。そして、この送信信号を送受信装置79で高周波信号に変調し、アンテナ8から空間に放射する。エンジンスタートスイッチ74またはエンジンストップスイッチ75を操作されて送信信号をアンテナ8から送出した主局72では、中央演算処理装置77により送受信装置79が受信回路として働くように切り替えられる。

【0045】一方、車両71に搭載された従局73は、図15に示すように、本発明に係る送受信装置80、中央演算処理装置81、記憶装置82、セルモータ84や燃料供給装置85、点火装置86等を制御するエンジン制御装置83を備えている。従局73では、通常の待機状態においては、中央演算処理装置81により送受信装置80は受信回路として働くように制御されている。空間伝播によって主局72から従局73へ送られた送信信号は、従局73のアンテナ8で捕えられ、送受信装置80で指令コードおよびIDコードの復調が行われる。復調されたコードは、中央演算処理装置81によって記憶装置82内のコードと比較判定される。ここでIDコードが一致すると、中央演算処理装置81は指令コードの内容に応じた制御信号をエンジン制御装置83に出力し、指令コードに応じてセルモータ84や燃料供給装置85、点火装置86等を制御させる。

【0046】ついで、中央演算処理装置81は、エンジン始動もしくはエンジン停止が成功したこと、あるいはエンジンや変速機の故障によっていずれかの動作に失敗したことを検知する。ついで、中央演算処理装置81は、送受信装置80を送信回路として働くように切り替え、制御動作の成功または失敗を示す情報を含めた応答信号を送受信装置80から出力させ、アンテナ8を通じて応答信号を送り出すことによって応答する。

【0047】この応答信号が主局72によって受信されると、主局72の中央演算処理装置79は応答信号に含まれている情報に基づき、エンジン始動もしくはエンジン停止に成功したこと、あるいはエンジンや変速機の故障のためエンジンを始動できないことなどを知り、これを報知器76におけるランプの点滅状態やブザーの音の音色の違い等によって報知する。

【0048】このようにワイヤレス・エンジンスター装置に本発明の送受信装置79、80を採用し、さらに応答信号に故障情報等を含めることにより、失敗した場合には、送受信の失敗によるものか、エンジン等の故障によるものかを操作者に報知することができる。また、ワイヤレス・エンジンスター装置に本発明の送受信装置79、80を用いれば、主局72を小型化することができるので、主局72の携帯性が向上する。また、本発明の送受信装置79、80を用いれば、消費電力を

小さくすることができるので、主局72の電池を長持ちさせることができて電池交換頻度を低下させることができ、従局73でも車載バッテリの消耗を低減することができる。さらに、車両71の状態を手元の主局72（報知器76）で確認できるので、操作の確実性及び安全性が高まり、実際にエンジンが始動しているかといった操作者の不安感を拭うことができる。

【0049】（第3の応用例）図16～図18はさらに別な応用例であって、ワイヤレス・ガレージ扉開閉装置を示している。これは図16に示すように、操作側である主局93からの無線送信信号によりガレージ91の扉（シャッター）92を開閉するワイヤレス・ガレージ扉開閉装置に応答確認機能を持たせたものである。

【0050】主局93は、図17に示すように、扉開成スイッチ95、扉閉成スイッチ96、応答確認用のランプやブザー等の報知器97、中央演算処理装置98、記憶装置99および本発明に係る送受信装置100を備えている。しかし、操作者により扉開成スイッチ95または扉閉成スイッチ96が操作されると、そのスイッチ95、96による扉開成命令または扉閉成命令が中央演算処理装置98に伝えられる。命令を受け取った中央演算処理装置98は、その命令の内容に応じた指令コードと主局93の識別を行なうIDコードを記憶装置99から呼び出し、これら2つのコードを組み込んだ送信信号を生成する。扉開成スイッチ95または扉閉成スイッチ96が操作されると、中央演算処理装置98は、送受信装置100を送信回路として働くように制御する。そして、この送信信号を送受信装置100で高周波信号に変調し、アンテナ8から空間に放射する。扉開成スイッチ95または扉閉成スイッチ96を操作されて送信信号をアンテナ8から送出した主局93では、中央演算処理装置98により送受信装置100が受信回路として働くように切替えられる。

【0051】一方、ガレージ91に設置された従局94は、図18に示すように、本発明に係る送受信装置101、中央演算処理装置102、記憶装置103、ガレージ扉92を開成又は閉成させるためのモータ104を備えている。また、待機状態にある従局94では、送受信装置101は中央演算処理装置102により受信回路として働くように制御されている。空間伝播によって主局93から従局94へ送られた送信信号は、従局94のアンテナ8で捕らえられ、送受信装置101で指令コードおよびIDコードの検波が行われる。検波されたコードは、中央演算処理装置102によって記憶装置103内のコードと比較判定される。ここでIDコードが一致すると、中央演算処理装置102は指令コードの内容に応じた制御信号をモータ104に出力し、指令コードに応じてガレージ扉92を開き、あるいは閉じる。

【0052】ついで、中央演算処理装置102はドアが指令どおり施錠もしくは解錠されたことを確認すると、

送受信装置101を送信回路として働くように切り替え、ガレージ扉92の状態を表わす情報や暗号鍵情報を含んだ応答信号を送受信装置101から出力させ、アンテナ8を通じて応答信号を主局93へ送信する。

【0053】主局93は、送信信号を送った直後に応答信号を受信すると、暗号鍵情報を照合し、暗号鍵情報が一致すると、応答信号に含まれるガレージ扉92の状態に関する情報に基づき、ガレージ扉92が開いている、あるいは閉じていることを報知器97で報知する。

【0054】このようにワイヤレス・ガレージ扉開閉装置に本発明の送受信装置100、101を採用し、さらに応答信号に暗号鍵情報を含ませることにより、高速レスポンスと防犯性の向上といった効果を得ることができる。また、本発明の送受信装置100、101を用いることにより主局93を小型化することができるので、操作側である主局93の携帯性が向上する。また、本発明の送受信装置100、101を用いることによって電力消費を少なくできるので、主局93の電池消耗を抑えて電池交換頻度を少なくし、従局94側では車載バッテリの消耗を低減できる。さらに、ガレージ91の開閉状態を手元の主局93で確認できるため、夜間等で開閉が直接確認ができない状況でもガレージ扉92の開閉状況の把握が可能となる。

【0055】(第4の応用例)図19～図21はさらに別な応用例であって、機器を遠隔操作するためのテレコントロールシステムを示している。これは図19に示すように、操作側である主局112からの無線送信信号により離れた位置にある車両等の機器111を上下左右に移動させるためのテレコントロールシステムに応答確認機能を持たせたものである。

【0056】主局112は、図17に示すように、上移動の操作スイッチ114、下移動の操作スイッチ115、右移動の操作スイッチ116、左移動の操作スイッチ117、応答確認用のランプやブザー等の報知器118、中央演算処理装置119、記憶装置120および本発明に係る送受信装置121を備えている。しかして、操作者により上下左右のいずれかの操作スイッチ114～117が操作されると、その操作スイッチ114～117による制御命令が中央演算処理装置119に伝えられる。命令を受け取った中央演算処理装置119は、その命令の内容に応じた指令コードと主局112の識別を行なうIDコードを記憶装置120から呼び出し、これら2つのコードを組み込んだ送信信号を生成する。いずれかの操作スイッチ114～117が操作されると、中央演算処理装置119は、送受信装置121を送信回路として働くように制御する。そして、この送信信号を送受信装置121で高周波信号に変調し、アンテナ8から空間に放射する。いずれかの操作スイッチ114～117が操作されて送信信号をアンテナ8から送出した主局112では、中央演算処理装置119により送受信装置

121が受信回路として働くように切替えられる。

【0057】一方、機器111に搭載された従局113は、図21に示すように、本発明に係る送受信装置122、中央演算処理装置123、記憶装置124、モータを正転させて機器111を上方へ移動させるためのモータ制御部125、モータを逆転させて機器111を下方へ移動させるためのモータ制御部126、ハンドルを右回転させて機器111を右へ移動させるためのハンドル制御部127、ハンドルを左回転させて機器111を左へ移動させるためのハンドル制御部128を備えている。また、待機状態にある従局113では、送受信装置122は中央演算処理装置123により受信回路として働くように制御されている。空間伝播によって主局112から従局113へ送られた送信信号は、従局113のアンテナ8で捕らえられ、送受信装置122で指令コードおよびIDコードの検波が行われる。検波されたコードは、中央演算処理装置123によって記憶装置124内のコードと比較判定される。ここでIDコードが一致すると、中央演算処理装置123は指令コードの内容に応じた制御信号をモータ制御部125、126またはハンドル制御部127、128に出力し、指令コードに応じて機器111を上下左右に移動させる。

【0058】ついで、従局113の中央演算処理装置123は機器111が指令どおり移動したことを確認すると、送受信装置122を送信回路として働くように切り替え、機器111の移動状態を表わす情報を含んだ応答信号を送受信装置122から出力させ、アンテナ8を通じて応答信号を主局112へ送信する。

【0059】主局112は、送信信号を送り出した直後に応答信号を受信すると、応答信号に含まれる機器111の移動状態に関する情報を解読子、機器の移動状態を報知器97で報知する。

【0060】このようにテレコントロールシステムに本発明の送受信装置を採用し、さらに応答信号に暗号鍵情報を含ませることにより、応答性を向上させることができ。さらに、本発明の送受信装置121、122を用いることにより、主局112を小型化することができるので、操作側である主局112の携帯性を向上させることができる。また、本発明の送受信装置121、122を用いることによって電力消費を少なくできるので、主局112の電池消耗を抑えて電池交換頻度を少なくできる。さらに、機器111の操作状態を手元の主局112で確認できるため、操作対象となる機器111を直接見ることができない状況でも操作状態を把握しながら操作することができ、操作の確実性と信頼性を向上させることができる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態であって、自励式超再生受信回路を用いたASK方式の送受信装置の構成を示すブロック図である。

【図2】(a) (b) (c)は同上の送受信装置の受信動作を説明するための各部の波形図である。

【図3】同上の送受信装置の具体回路の一例を示す回路図である。

【図4】本発明の別な実施形態であって、他励式超再生受信回路を用いたASK方式の送受信装置の構成を示す回路図である。

【図5】本発明のさらに別な実施形態であって、他励式超再生受信回路を用いたASK方式の送受信装置の構成を示す回路図である。

【図6】本発明のさらに別な実施形態であって、自励式超再生受信回路を用いたFSK方式の送受信装置の構成を示す回路図である。

【図7】超再生受信回路の周波数-受信特性を示す図である。

【図8】超再生受信回路の受信動作を説明する図である。

【図9】本発明のさらに別な実施形態であって、他励式超再生受信回路を用いたFSK方式の送受信装置の構成を示す回路図である。

【図10】本発明の送受信装置の応用例であって、ワイヤレス・ドアロック装置を示す説明図である。

【図11】同上のワイヤレス・ドアロック装置の主局の構成を示すブロック図である。

【図12】同上のワイヤレス・ドアロック装置の従局の構成を示すブロック図である。

【図13】本発明の送受信装置の応用例であって、ワ

ヤレス・エンジンスタータ装置を示す説明図である。

【図14】同上のワイヤレス・エンジンスタータ装置の主局の構成を示すブロック図である。

【図15】同上のワイヤレス・エンジンスタータ装置の従局の構成を示すブロック図である。

【図16】本発明の送受信装置の応用例であって、ワイヤレス・ガレージ扉開閉装置を示す説明図である。

【図17】同上のワイヤレス・ガレージ扉開閉装置の主局の構成を示すブロック図である。

【図18】同上のワイヤレス・ガレージ扉開閉装置の従局の構成を示すブロック図である。

【図19】本発明の送受信装置の応用例であって、テレコントロールシステムを示す説明図である。

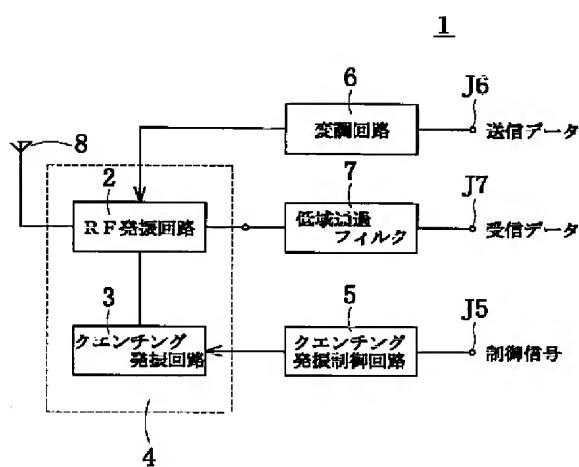
【図20】同上のテレコントロールシステムの主局の構成を示すブロック図である。

【図21】同上のテレコントロールシステムの従局の構成を示すブロック図である。

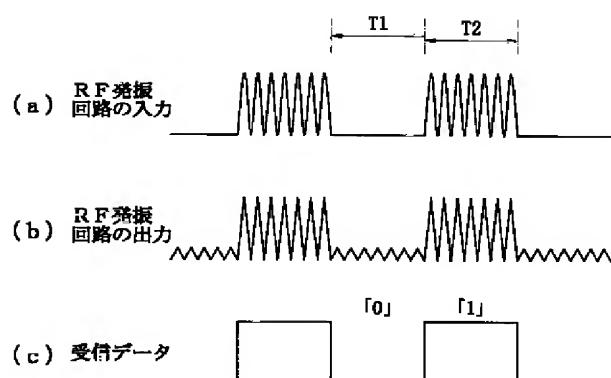
#### 【符号の説明】

- 2 RF発振回路
- 3 クエンチング発振回路
- 4 超再生受信回路
- 5 クエンチング発振制御回路
- 6 変調回路
- 7 低域通過フィルタ
- 8 アンテナ
- 22 RF発振制御回路

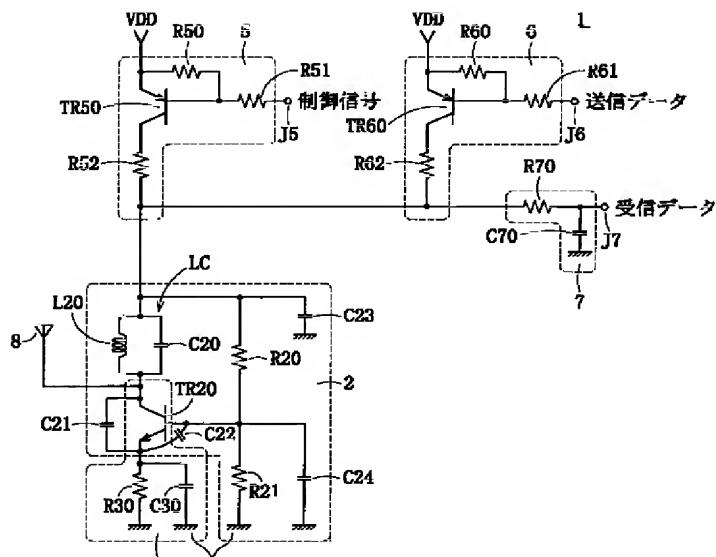
【図1】



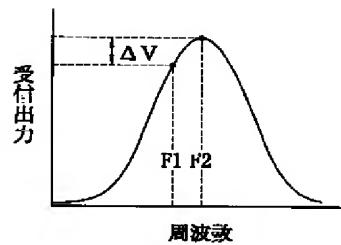
【図2】



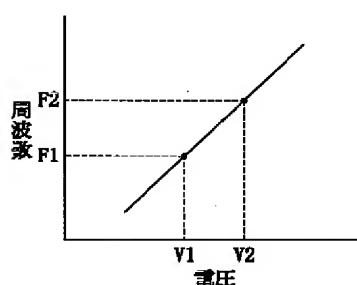
【図3】



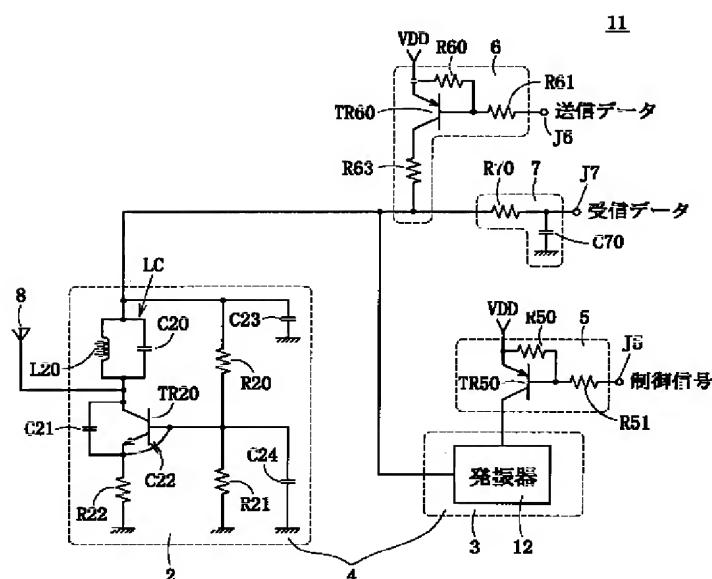
【図7】



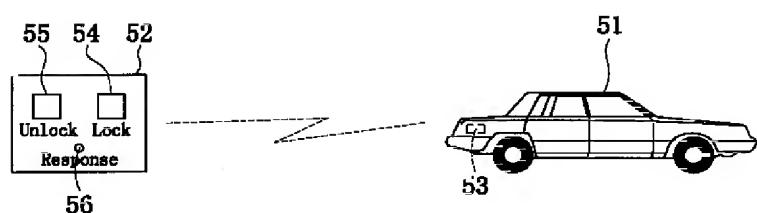
【図8】



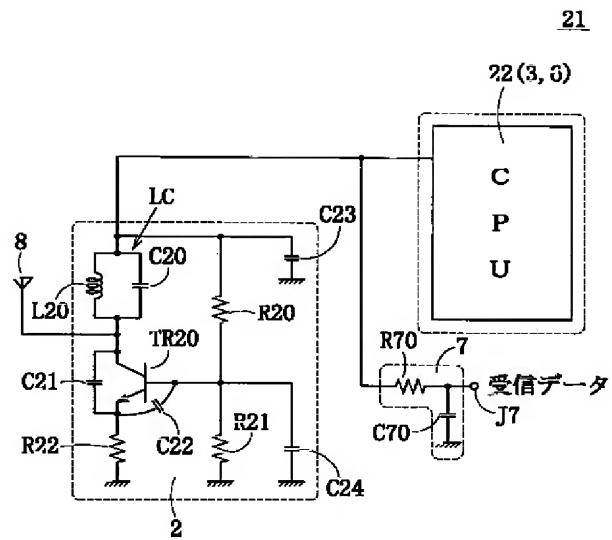
【図4】



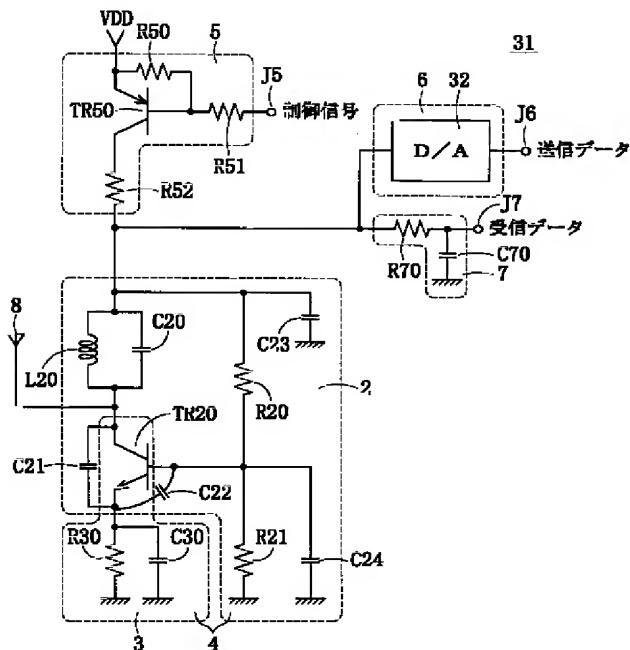
【図10】



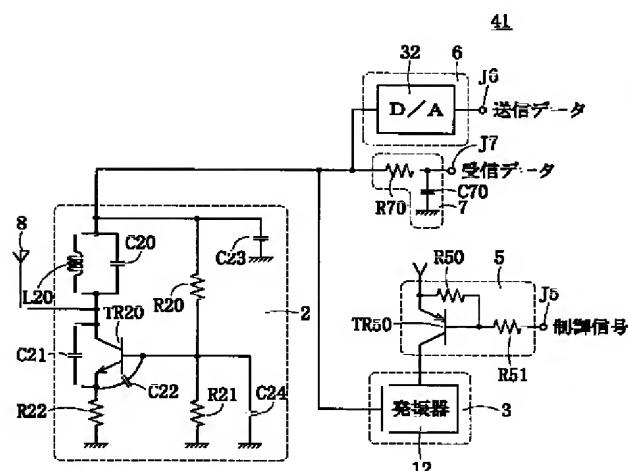
【図5】



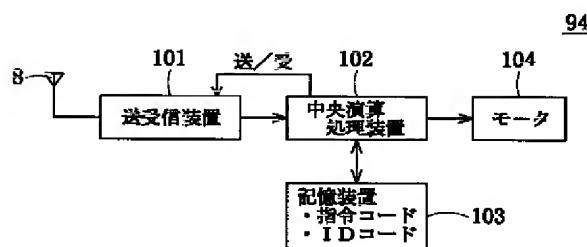
【図6】



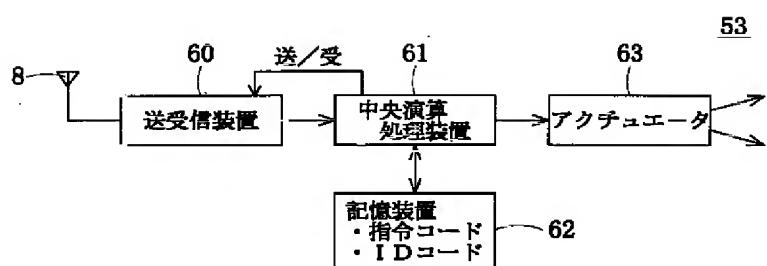
【図9】



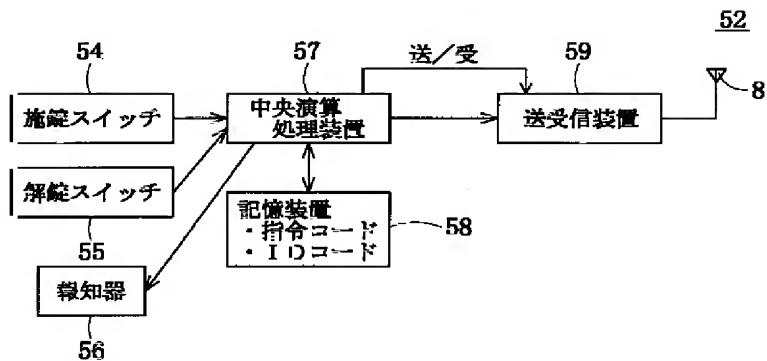
【図18】



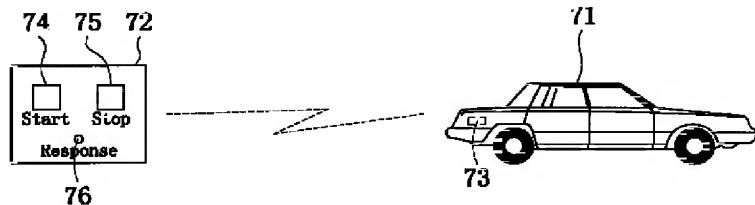
【図12】



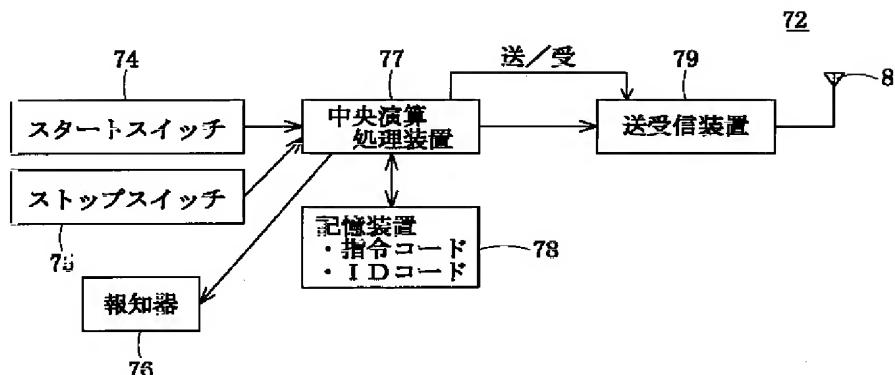
【図11】



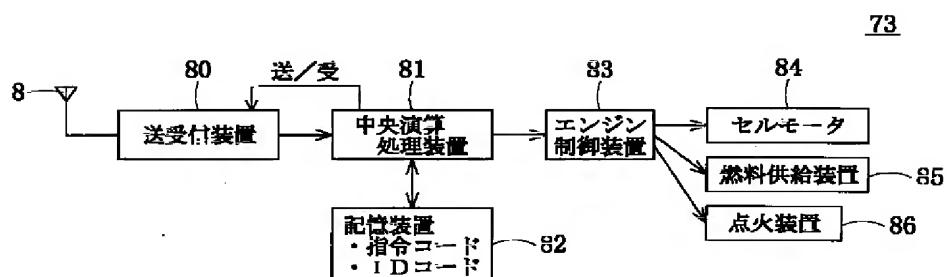
【図13】



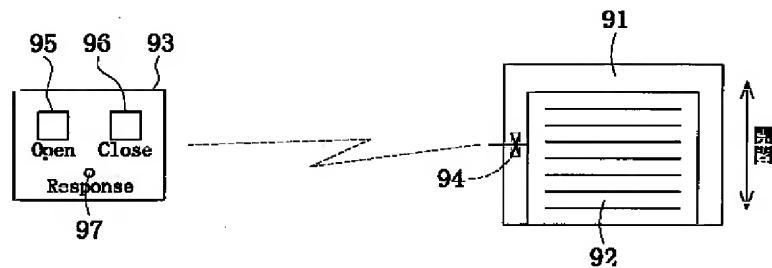
【図14】



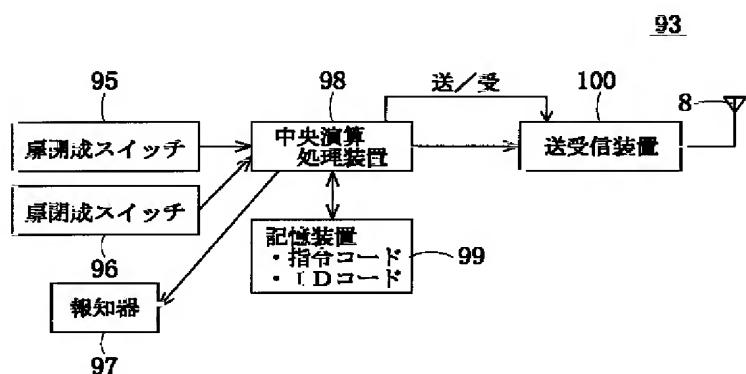
【図15】



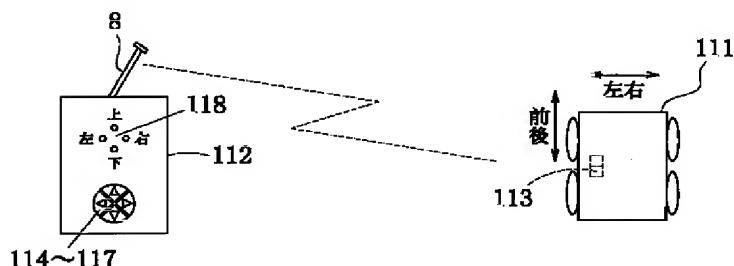
【図16】



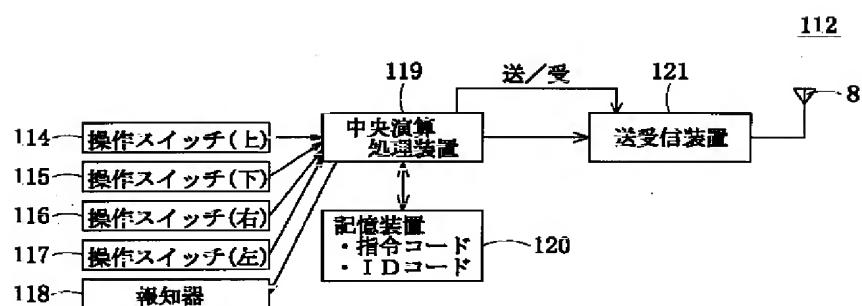
【図17】



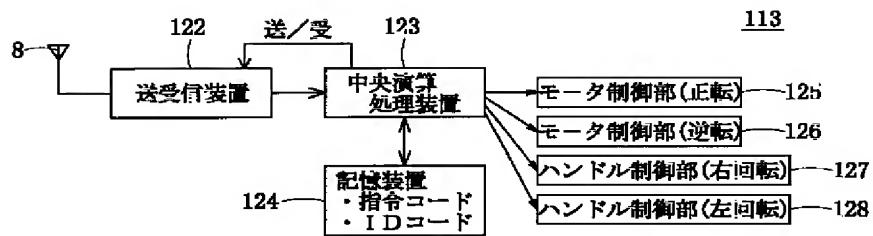
【図19】



【図20】



【図21】



---

フロントページの続き

(72)発明者 古川 博久

京都府京都市右京区花園土堂町10番地 才  
ムロン株式会社内

F ターム(参考) 5K011 BA01 DA05 DA15 KA03  
5K048 AA03 AA16 BA42 BA52 CA13  
DB01 DC01 EA16 HA04 HA06  
HA11